

学術情報流通・国際発信をめぐる動向について

1. 日本国内の政策的動向

(1) 『学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について』の刊行

平成 24 年 7 月に科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会の審議のまとめが公表され、オープンアクセス推進および機関リポジトリ支援が明確に示された。【参考資料】

(2) 科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）の制度改正

研究成果公開促進費について、平成 25 年度の公募から、種目が「学術定期刊行物」から「国際情報発信強化」に変更になり、国際情報発信強化(A) (B) およびオープンアクセス刊行支援という区分が設けられた。これにより、オープンアクセスジャーナル誌、国際情報発信強化に対する直接的な助成は日本学術振興会が行うことが明確化した。

2. 世界的動向

(1) BOAI 10 の発表

Budapest Open Access Initiative が、これからの 10 年に向けた指針を示す提言を 9 月に発表した。2002 年にオープンアクセスに関する宣言を公開し、運動を行ってきた BOAI が、その理念と意義を再確認し、今後 10 年の目標を示したものである。ポリシー（7 項目）、ライセンスと利用（1 項目）、基盤と持続可能性（14 項目）、アドボカシーと協調（6 項目）の 4 部 28 項目の提言を示している。【資料 4-2】

(2) ゴールド・オープンアクセスの進展

Plos One, PeerJ の登場、Finch Report の発表、eLife の発刊など、ゴールド・オープンアクセスに係る新しい動きが見られた。

3. オープンアクセスに関する国内での取り組み状況

(1) SCOAP³

【資料 4-3】

(2) arXiv.org

【資料 4-4】

4. 機関リポジトリに関する国内の動向

(1) CSI 委託事業(コンテンツ系)の第 3 期第 3 カ年の終了

平成 25 年度は公募によらない支援事業を継続

(2) JAIR0 Cloud（共用リポジトリサービス）の強化

新規構築の促進、設置機関の拡大

(3) 学位規則の改正

中央教育審議会大学分科会大学院部会において、学位論文（博士論文）の公表について審

議された。学位規則の改正案に関するパブリックコメントを実施中（2012年11月30日～2013年1月4日）である。

5. システム基盤の整備状況

(1) J-STAGE3 のリニューアル

日本国内の科学技術情報関係の電子ジャーナル発行を支援するシステム J-Stage3 が 2012 年 5 月 1 日にリニューアルされた。XML 化、Journal@rchive と統合、ユーザインタフェースの改善などが行われた。

(2) JaLC (ジャパンリンクセンター) の発足

国内電子コンテンツに DOI を付与するための共同プロジェクトとして JaLC が発足した。JST, NDL, NII, NIMS の 4 者が共同運営している。運用に向けて、会員・会費等の規約類を最終調整中。機関リポジトリに関して、NII が取りまとめることで合意している。

(3) ORCID の発足

Open Researcher and Contributor ID (ORCID) イニシアチブが 9 月 7 日に ORCID, Inc. として正式に発足した。

6. その他

BioMed Central から、NII および JUSTICE に対して、APC (Article processing charge) の機関ディスカウントについて提案したい意向があり、調整中。

SEP (Stanford Encyclopedia of Philosophy) から日本の図書館に向けたメッセージを受けて検討中。

【資料 4-5】